

「柏崎の橋」

4 4 野田大橋

野田大橋は、市街地から国道353号線を南進し、野田コミュニティセンターの交差点で左折、旧野田小学校を過ぎた先の鶴川に架かる、主要地方道柿崎・小国線の橋である。国道353号線に架かる野田橋に比べ大きい橋であることから、このような名が付けられたと考えられる。

野田大橋は、昭和41年8月6日に新潟第一建設会社の請負で着工。POホーロー桁工法による鉄筋コンクリート製で全長27m、幅6m、工費953万円、総工費1,400万円。



渡橋式でのテープカットの様子
(柏崎市史資料集 近現代篇3上より)

昭和42年1月に竣工し渡橋式が行われたが、竣工式は同年8月8日に行われた。これは鶴川・野田・上条村の3村が合併し黒姫村となってから10周年となることと、黒姫村体育館の竣工、村内主要県道改良工事完工を併せて祝うためであった。

新築の村民体育館で行われた合同記念式典は、村内外から多数の来賓が参集し盛大に行われ、村の1,120全戸には記念品が配られた。

昭和54年に発表された原石運搬計画によって、旧小千谷・柿崎線（現柿崎・小国線）が柏崎刈羽原子力発電所港湾工事用の原石運搬に利用されることとなり、運搬に利用される道路沿線地区の住民側の要望を取り入れた道路改良が行われることが決まった。昭和55年10月には原石運搬が開始され、野田大橋は昭和58年8月に現在の橋に架け替えられた。

工事に携わった市の元職員によると、柿崎・小国線の歩道は、原石運搬のための道路改良時に地域住民の交通安全対策として整備されたものであり、その際、野田大橋の歩道も設けられたという。

旧野田小学校児童の登下校の交通安全を守った歩道は、現在も地域住民の交通安全に寄与している。



旧野田大橋



現在の野田大橋

- 参考にした本
記念誌 創立二十周年（379ノタ）野田コミュニティ 編
黒姫この里で（224ウエ）植木昭吾・西須順作 編
柏崎刈羽原子力発電所誕生百物語（540ナカ）長野茂 著
柏崎市史資料集 近現代篇3下（224Kシハ）
柏崎市史編さん委員会 編
柏崎日報 昭和42年、昭和55年
柏新時報 昭和42年、昭和55年